

SawamotoDentalOfficeNews

2015年6月号



紫陽花が大輪の花を咲かせる頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
今月のSawamoto Dental OfficeNewsでは、「ブラッシングの効果」について
特集してまいります。

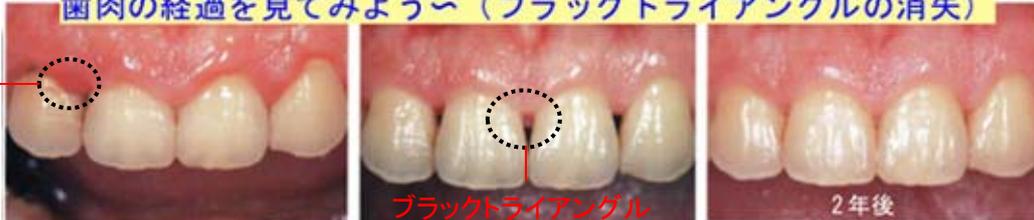
●歯ぐきの腫れを抑えるにはブラッシングが有効です。



ブラッシング(歯ブラシ)により、細菌の塊であるプラークの付着を防ぐことができます。
プラークの毒素は歯ぐきの腫れの原因となりますので、プラークの量を減らせば、腫れも治まってきます。

歯肉の経過を見てみよう～(ブラックトライアングルの消失)

歯肉乳頭の腫れと発赤



歯肉炎があり、歯石が沈着し、
歯間乳頭に腫れと発赤が見られます。

歯石を除去したのち、一時的
にブラックトライアングルがで
きています。歯磨き指導し、
プラークコントロールを行って
もらいました。

プラークコントロールも良好。
歯肉も立ち上がり、歯間乳
頭の形も良くなりました。

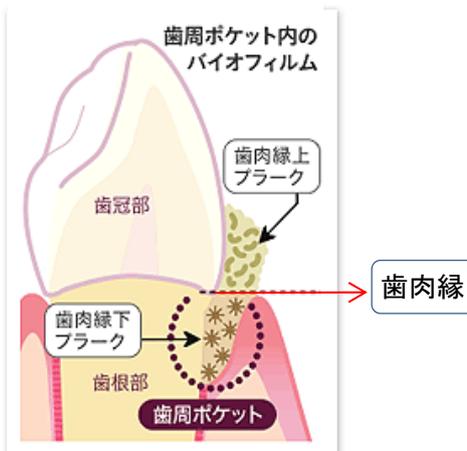
●「歯肉縁上プラーク」と「歯肉縁下プラーク」の違いとは？

プラークには、歯肉縁よりも歯冠側の歯の表面につくものと、歯肉縁よりも歯根側の歯周ポケット内につくものがあります。

どちらも同じものですが、生息している細菌と存在の仕方が違います。

歯冠の表面につくものを「歯肉縁上プラーク」、歯根につくものを「歯肉縁下プラーク」と呼びます。

歯肉縁上プラークは歯肉炎の、歯肉縁下プラークは歯周炎の原因となります。



●ブラッシングは「歯肉縁下のプラーク」にも効果があります。

歯肉縁上プラークの抑制には、ブラッシングが有効です。

しかし、歯の根元の歯周ポケット内に存在する歯肉縁下プラークには、歯ブラシの毛先は届きません。

では、ブラッシングは歯肉縁下プラークには効果がないのかと思うかもしれませんが、歯肉縁上プラークを除去すれば、歯肉縁下プラークも減ることが分かっています。



歯肉炎や歯周炎にならないためにも
定期的なメンテナンスを受け
正しいホームケアを行っていきましょう。
正しいお手入れの仕方などは当院スタッフへどうぞ
お気軽にご相談ください。